

参加型学習を進めるための ファシリテーション実践

愛媛大学社会連携推進機構
教授 前田眞
maeda.makoto.rb@ehime-u.ac.jp
Facebook/line/instagramでも情報発信中

1

今日のプログラム（予定）

1. オープニング・ガイダンス(5分／5分)
2. アイスブレイク(10分／15分)
班内自己紹介、班名
3. 講座(30分／45分)
4. 事例(0分／45分)
5. ワークショップ実践(50分／95分)
6. グループ発表(20分／115分)
7. ふりかえり(5分／120分)

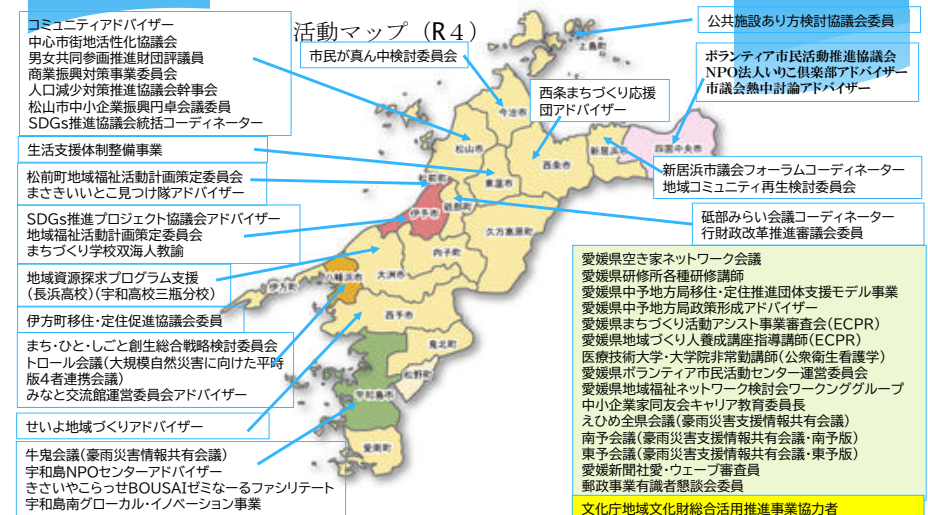
2

自己紹介

1953年（昭和28年）八幡浜市生まれ
1971年（昭和46年）八幡浜高校卒業
1977年（昭和52年）広島工業大学卒業
1979年（昭和53年）広島で就職
1992年（平成4年）愛媛県松山にJターン、設計事務所就職を経て起業
2005年（平成17年）NPO法人まちづくり支援えひめ代表に就任
2015年（平成27年）愛媛大学に就職現在に至る

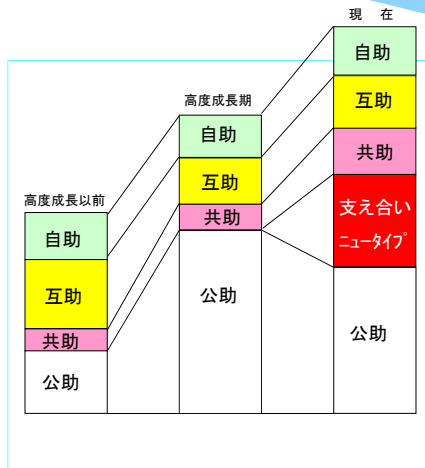


愛媛大学の地域連携コーディネーターとして、「全国ボランティアフェスティバルえひめ全体会」などのコーディネーター、まちづくり学校双海人、伊予市郡中地区のまちづくり活動をはじめとする県内各地の住民活動のファシリテーター、市民活動やボランティア活動や地域課題解決に向けたこれからの共助、互助型の社会づくりなど「背中を押すような支援」をモットーにしています。



これから目指すべき地域社会の実現に向けて 学びから実践へ

なぜ、主体的参加が必要なのか？



非制度的・・・暮らしの多様化に伴う地域課題に対応する非制度的活動があると住民満足度が高まる傾向がある。

制度的・・・公助は充実しているが暮らし方が多様化している分、制度的活動だけでは住民満足度が高まらない傾向がある。

制度と非制度とのコラボレーション
ができる社会へ

これからは「参加型学びと実践」 で暮らしを守る

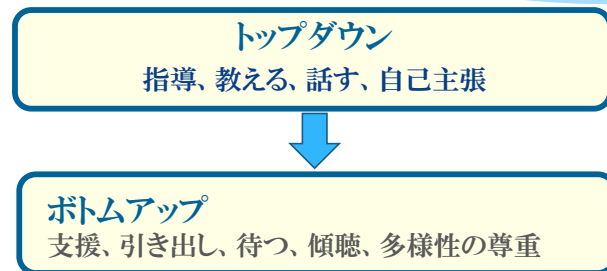


目標 「暮らしを自治する」

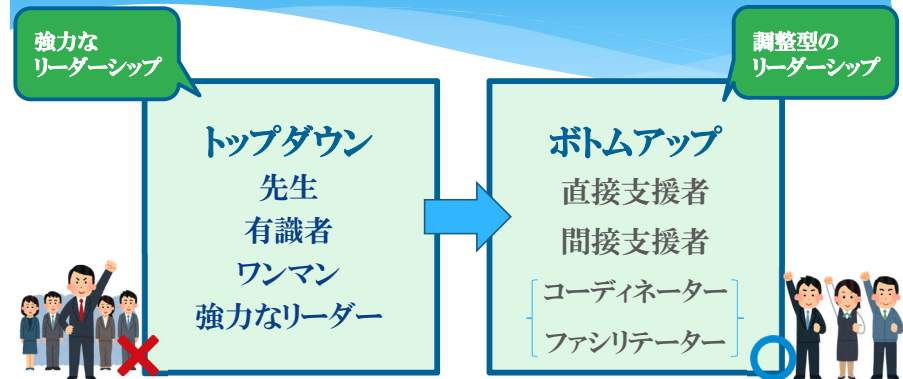
「暮らしの基本」を守り、
「地域の魅力づくり」を行うこと



参加型学びの実現に求められるもの ～マルチステークホルダープロセス～



参加の場づくり



参加型学習がもたらすもの

無関心者層の当事者意識が高まる

= 自分に関わる問題と認識し、解決に向かって立ち上がるようになる

他人事

遠い出来事
対岸の火事
頭でわかって
も
体でわかっていない



自分事

自己決定
責任ある
長期的な関わり
頭でわかり、体でわかる

持続的に繰り返していく必要がある

地域を元気にする学びと実践

地域の課題解決に向けて

一人一人に居場所と出番があり、役に立つ幸せを感じてもらうこと



- この世の中に役に立たない人はいない
- 一人ひとりが支え合い、課題解決に立ち向かう
- 少子高齢社会の課題解決に資する人や地域のきずな(コミュニティ)をつくる



ソーシャルキャピタル

ファシリテーションとは

- 意思決定に有効な会議を、行う者・集う者で**共同作業的**につくりあげること
- 会議の最も重要な目的は、**次の行動（役割分担・工程）への意思決定**をすること
- 集まって話すことを目的としないように留意する必要がある

ファシリテーションをデザインする

(前提) 共有 (分かち合う)



発散 (意見の引き出し)



収束 (まとめ)



合意形成 (納得を得る)



実践に向けて(ファシリテーターとして求められること)

- 方向性を示す
問題の明確化
- 組織を整える(メンバー構成を考える)
適切な人員配置
- メンバーのベクトル共有(目標の共有)
解決に向けての多様なアプローチの構築
複眼的思考(ターゲット, 自分, 組織)
- メンバーのエンパワーメント(やる気起こし)
意思決定プロセスの整理
受け止めることと受け入れることは違う

13

ファシリテーションのスキルを身につける

姿勢と態度 「あなたの話を聴きます」を体現する

→体を向ける、相手の目を見る、身を乗り出して聴くなど

話す・聴く

→問いかけの仕方、相づちや間の取り方、繰り返しや確認、言い換えによる理解と共感

話し合いの目的やプロセス等の確認と進行管理

→全体の目的、今日の目標を基に、話し合う段取りの理解、時間配分への配慮、中間でのまとめ、行き詰まったときの配慮、決まったことの確認など

実践に向けて(参加者に促すこと)

- 会議の目的と性格をはっきりと理解してもらう
- 事前にしっかりと資料を読み込んでから参加してもらう(地域の会議では無理を前提にする)
- 問題点をピックアップして、整理して伝える
- 自分の考えを発言してもらう
- 必ず発言してもらう
- 発言は結論から述べ、なぜなのか、例示、再度の結論の順に話してもらう

15

合意形成に向けて取り組むこと

- 納得感を得るために、十分話し合う
- 自分の判断に固執しない、他人を言い負かすことをあおらない
- 多数決はやめる
- 葛藤を避ける方向は取らない
- 安易な妥協はしない
- 自分の意見を変えるときは、明確な理由が必要
- 少数意見は、考え方が広がるもの、ブラッシュアップできるものとして尊重する
- 論理だけでは押し切れない(お徳感があるか)
- 感情への配慮も

16

会議(ワークショップ)の基本構成

- 導入** → 場の安心感や信頼性を創出すること
達成目標を明らかにし共有すること
- 個人作業** → まず、自分はどう考えるのか。そのための時間をつくる
- グループ作業** → 話しやすい雰囲気と発言回数を増やすために6~8人程度で話す。
発散から収束へ話し合いのプロセスづくり
- 全体共有** → それぞれのグループの成果を発表
- 全体討議** → 全体のまとめに向けて意見交換・成果の共有
- 総合評価** → アンケートやふりかえりシート

会議(ワークショップ)の特性

- 対等** → 年齢、立場にかかわらず対等で
(全員で共創するためには必要)
- 主体性** → 誰かにお任せではなくて、自分事として関与する姿勢を生み出すこと
- 個性** → 個人の個性や価値観を活かすこと
- 創造** → 個人の個性や価値観の交差による新しい価値を生み出すこと
- 楽しさ** → 相互に刺激し合うことで新しいものを生み出すことは楽しい。楽しさや達成感は継続の種

準備

- 会議の意味、位置づけが明確
- 会議場所のアクセシビリティ
(集まりやすい)
- 最大公約数の日時
- 議題のすりあわせ
- 必要なデータ・補足資料の収集
- 出欠の確認

準備

- 会場設営(椅子・机の配置、マーカー、ホワイトボード、湯茶、お菓子)
- 時間設定
- 手法(個人、ペア、グループ、KJ法、ファシリテーショングラフィックなど)
- 役者きめ(ファシリテーター・グラフィッカー、タイムキーパー、ムードメーカー、アイスブレイカーなど)
- 準備物(模造紙、カラーマーカー、付せん紙等)

ファシリテーター(進行役)の役割

- ゴールへのベクトルづくり (時間告知)
- もてなしのコントロール (即決か宿題か)
- マイノリティ意見への愛情
(全面否定はしない)
- みんなの存在をしめすさりげなさ
(無発言者にも光が当たるように)

21

ファシリテーター(進行役)の役割

- 時間配分
- ムードづくり
- テンポ・リズム
- 全体の雰囲気づくり
- 自由にアイデアを出す
- 視点を膨らませる
- 多様な意見を結論へ集約する
- 決まったことの確認のため儀式をする

22

話し合いの技法 **アイスブレイク**

本題に入る前の頭や体を使ったウォーミングアップのこと

- 場づくり、雰囲気づくり
- グループ分け

23

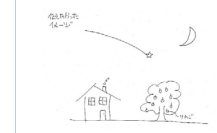
* **アイスブレイク**(ときほぐし)

- 心と体をときほぐす場づくり
- コミュニケーションを体感する

恥かき指示描き

ペンと白い紙を用意する
ルールを説明する
(質問しない、相談しない、指示通り描く)
5つの要素を描くように順番に指示する
(一本の線、星、月、家、実なる木)
他の人が描いた絵と見比べて、その違いを
みて、お互い笑い合う。(心ほぐし)
なぜ、そうなったのかを話し合う、説明する
(質問や相談を封じたことによって、
聴いたつもり、伝えたつもりが生じる
防ぐためには、質問、確認をしっかりとすること
これらをルーチンにすることを提案する)

伝えたかったイメージ



よくある 記入パ ターンの ひとつ



話し合いの技法 合意形成に向けて

こころ構え（グランドルール）

- 相手の意見をよく聞く（傾聴）
- 記録する（口より手）（カードやシート）
- 人の意見を否定しない天下国家だけを語らない（ご意見番にならない）
- 適切で平易な表現
- 意思をはっきりさせる（自分はこうするという提案を）
- 合意の意思表示（儀式）をする

25

話し合いの技法

ブレンストーミング・ラベルワーク（発散技法）

- テーマについて思いつくまま自由に考えられることを、すべて出し合うまで話し合うこと（質より量）
- くだらないことでも話せる雰囲気づくりが大切（笑い・奇抜さ大歓迎）
- 他の人のアイデアの横取り、相乗りも大歓迎（連想ゲームで）

26

話し合いの技法 ラベルワーク（収束技法）

- 参加者から出された断片的なアイデアを図式的に構造化する
- 参加者全員に課題に対する共通認識を作り出す
- 感情的な議論や先入観、思い込みを排除し、問題解決の糸口を探り出せる
- 発言の少ない人の意見も聞ける

27

話し合いの技法（ラベルワークを使った収束技法）

- a. 5～7人程度のグループがやりやすい
- b. 1枚のカードにはひとつの内容を書く
- c. サインペンで書く（周りへの優しさ）
- d. 糊の付いた面に書かないように
- e. カードに書くので簡潔になる
- f. カードの内容を発表しあい、似た内容のカードをそばに貼っていく
- g. こっそり貼らないように注意（何がどこに貼られているのかわかるように）

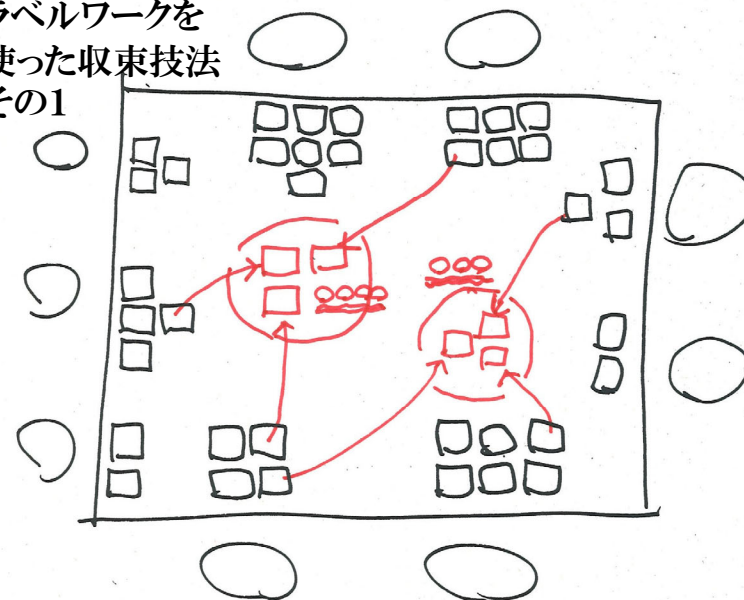
28

話し合いの技法（ラベルワークを使った収束技法）

- h. グループ化する（カードを動かしながら）
- i. グループに楽しいタイトルをつける
（目に付くように、新しさのヒントに）
- h. シマとシマの関係（対立や連携など）を矢印等で示す
- i. レイアウトや文字、囲み線の色などでよりわかりやすく
- j. 光カード（どこか言葉やアイデアが面白いカード）を中心にまとめることができる

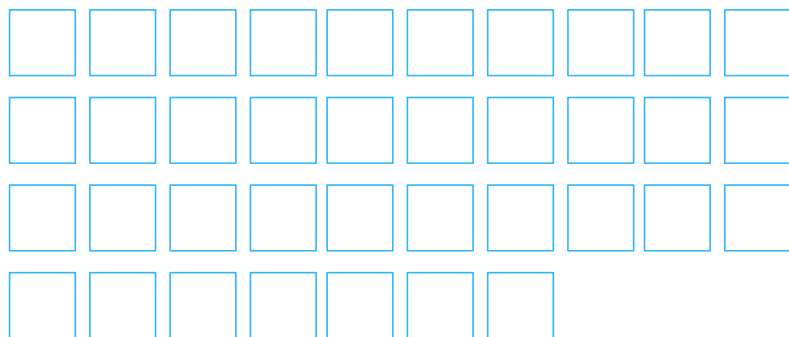
29

ラベルワークを 使った収束技法 その1

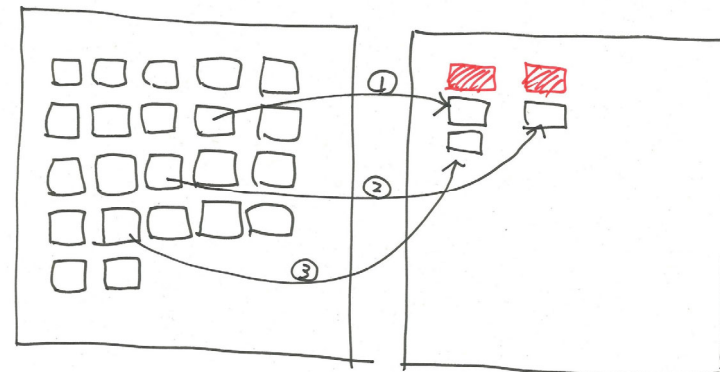


ラベルワークを使った（収束技法）その2

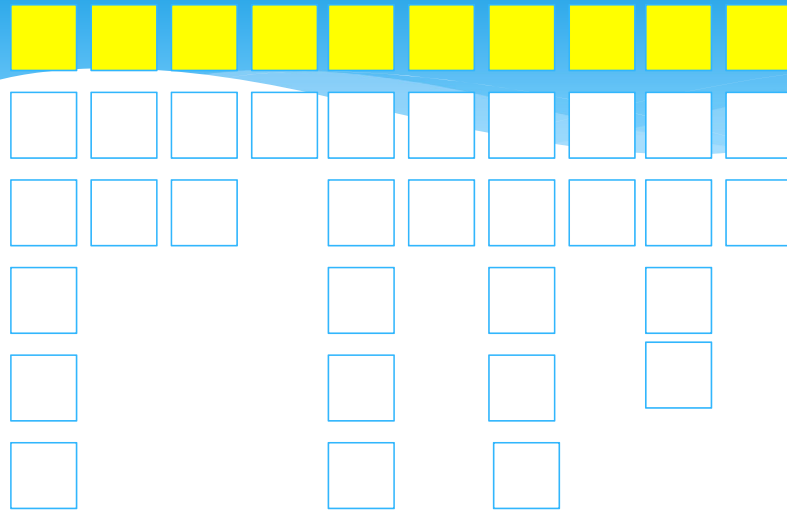
テーマによる気づきや意見をカード化
とにかく書いた分から紙面に張り出す



- ①たくさん出た意見の中から任意に一枚選び、このカードに適する見出しカードを作る(赤)
- ②さらにもう一枚のカードを任意に選び、このカードに適する別の見出しカードを作る(赤)
- ③さらに、任意に選んだカードで①似合うものがあればそのカードをその列に追加する
- ④これらをカードがなくなるまで繰り返す



分類の結果(見出し)



話し合いの技法 合意形成に向けて

- 数回で俯瞰した流れをつくる
- 積み上げ方式で臨む
- 途中から参加した人への配慮も

話し合いの技法 会議の後も

- 参加していない者への配慮
- 読みたくなる&使える議事録
- 行動につなげるための進捗管理

34

ファシリテーションでデザイン



35

実践に向けて 基本は5W1H

会議の背景	WHY	何のための集まり (テーマ) この集まりは必要か (ゴール)
会議の主体	WHO	誰を呼ぶか、外部人材を
会議の時期	WHEN	参加者の集まりやすい日時の設定
会議の場所	WHERE	集まりやすい場所の設定
会議の内容	WHAT	会議のゴールは
会議の方法	HOW	話し合いの仕方 (机の配置、プログラム、手法など)

36

事例1

■ 縁側プロジェクトとは(松山市西垣生)

◇平成15年結成の任意のボランティアグループ

◇松山市垣生地区を拠点に活動

縁側プロジェクトのテーマ

年をとっても住み慣れた地域で自分らしく生きたい。
そのためにはこの地域がどんな地域だったらいいだろう。
自分らしく生きる(死んでいく)ことのできる地域に
していくたに、いま、私たちはどんなことができるだろう。

■これまでの活動

◇いっしょに学ぼう地域の歴史(平成13年)



子どもとお年寄り



地域を見直す



知り合う
学び合う

◇コミュニティレストラン実験事業 (平成17年～)



みんなでつくる食べる



おいちゃんも
おばちゃんも
子どもたちも

まちづくり活動アシスト事業
(えひめ地域政策研究センター助成事業)



地域の素材



心のテーブルの継続

■活動から得た気づき

◆新しい力の発掘

手の足りないところ、今の自分たちではどうしようもない問題、そんな弱点があつてこそ新しい力が生まれる

◆子どもたちの力

子どもたちにも役割が必要

◆じわっと広がる

動員をかけられて仕方なく集まるのではなく、気になって寄ってきてもらえるように、お客さんではない仲間づくり

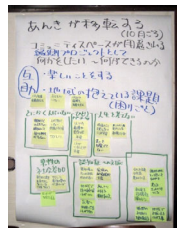
◆安心して暮らせる町へ

町全体がお年寄りや子どもたちの生活の場

■平成20年度事業

◇地域で暮らすことを下支えする居場所づくり事業

今秋、開設予定の新しくコミュニティスペースの設置を予定



5月より、地域住民や専門家の人たちとコミュニティスペースについて話し合いをスタート

高齢者・障害者福祉基金・地方分
(医療福祉機構助成事業)

いまづに縁側が できるまで

発行 〇縁側プロジェクト
〒791-8044 松山市西郷生 1497
TEL (089) 971-1172
メール engawa_2008@mail.goo.ne.jp



はじめまして、縁側プロジェクトです (^^)

“縁側”と聞いてみなさんは、なにを思い出しますか？ 私はサザエさん家にある庭に面した板間の廊下のような、部屋のような場所を思い出します。でも、おじいちゃん、おばあちゃん、のいなかった我が家には縁側はありませんでした。

縁側って不思議な場所です。家の中なのに、なぜか外の気配もあって、近所の人は（サザエさんで言うならば伊佐坂先生とか）玄関じゃなくて、縁側から来ちゃったりして、お茶をのんだり、洗濯物を畳んだり、縁側では時間がゆっくり経ちます。「ほっ」と一休みできる場所でもあります。

私たち、縁側プロジェクトは平成 16 年より、そこで暮らす人が気軽に「ちょっと」立ち寄って「ほっ」と一休みしていくことのできる縁側のような場所をつくりたいと活動を続けてきました。活動を始めて 5 年目に当たる今年、福祉医療機構より助成金をいただき、実際に縁側をつくることに挑戦したいと思っています。新しく出来る縁側は、地域のみさんに親しまれる縁側となるように、みなさんと一緒にしていきたいと考えています。現在、一緒に縁側づくりをして下さる方を募集中!! 子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまでどなたでも OK。みなさんの力を必要としています。よろしくお願ひします。

縁側プロジェクト★これまでの活動

●心のテーブル

縁側プロジェクトでいまいる事にチャレンジしていく中である時ある事に気がついた!! それは、みんなで一緒にごはんを食べるとなぜか楽しい、あったかい気持ちになることを。そこでスタートしたのが「心のテーブル」です。おいしい地元の素材をみんなで調理して、みんなで食べる。

「心のテーブル」は地域に住むみなさんのお腹と心を温めるに地域交流会です。



〇〇〇〇〇 第1回座談会開催

縁側のような場所ってどんな場所?

「縁側」と一言でいいますが、そこは一体どんな場所??? サザエさんで描かれている時代と現代とはまた、ちょっと違っているような気がします。また、いまづにあきわしい縁側ってどんな縁側でしょう。みなさんでお茶を飲みながら話し合います。ぜひ、ご参加ください。

日時●平成20年5月26日(月)18時30分～

場所●託老所あんき

(今後の予定) 第2回 6月9日(月)18時30分～/第3回 7月7日(月)18時30分～

お申し込み・お問い合わせは TEL (089) 971-1172 託老所あんき

TEL (089) 924-2224 株式会社バツフォ

独立行政法人福祉医療機構助成事業「地域で暮らすことを下支えする居場所づくり事業」

事例2

伊予市双海町

まちづくり学校

ふたみんちゅ

双海人の例

(学びから実践へ)



多様な参加者が集う
地域活性化の学び舎。

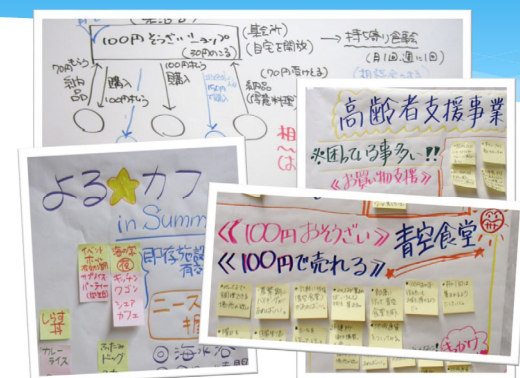
だれでも
参加OK!

主な取り組み	四国サイコー大学	まちづくり学校双海人1	まちづくり学校双海人2	まちづくり学校双海人3	まちづくり学校双海人4	まちづくり学校双海人5	まちづくり学校双海人6～
モニターツアー	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
学びの場							
よるカフェ							
くるくるはうす							
FFラボくらぶ(よもぐれ茶屋)							
ピアガーデン							
市民映画							
ピザ焼き							
トロコ列車							
軽トラ市							
移住事業							いよりん(元気いーよP)
下灘結婚式							
下灘珈琲							アルテフィーチェ
米糠酵素風呂							合同会社酵素まる
薬草園・塩づくり							
鰻カッパバーガー							漁協婦人部

職員会議やっています



ワークショップやっています





くるくるはうす



お互いの助け合いを生み出す事業

ボランティアに市場経済としての価値をつけない(お金に換算しない)

個人の持っている知識や経験、才能をどう活かすのかという視点が大事

生活の一部で役に立つということを共有する

誰がどこで困っているかを共有する機会を持つこと

カードゲームでわかりやすく

①最初の仲間づくり

サロンでも自治会の集まりでもいいですが、助け合いについて話し合う機会を持つ

②誰が、どんな助けを必要としているのかをみんなで話し合ってみる



結果として助け合いメニューができました

サービスの種類	サービスの種類
 食事づくり 簡単なおかずづくり お菓子・ケーキづくり	 留守番 ペットの世話・一時預かり 宅配便などの受け取り
 ゴミ捨て 洗濯 アイロンがけ	 モーニングコール 話し相手 手紙の代筆 本・新聞の代読
 車での送迎 遠方への買い物代行 家具など重い荷物の運搬	 花木の水やり 庭そうじ・草抜き 庭木の剪定
 買い物の付き添い 靴磨きなどの付き添い 近所へのおつかい ついでおつかい	 自転車・バイクなどの簡単な修理 家電の簡単な修理 お墓の掃除 刃物研ぎ
 子どもの世話 保育園への送り迎え 出産・育児の世話 産前・産後の家事援助	 洗車 蛍光灯の交換 日曜大工 車イスの介助 ビデオ撮影
 部屋の掃除 衣替えの手伝い 部屋の模様替えの手伝い 整理整頓の手伝い	 生け花 マッサージ 着物(ゆかた)の着つけ
 ワープロで文書作成 ファックスの送受信 事務局のお手伝い	 ワープロ・パソコン指導 趣味・特技の指導 スポーツの指導

ワークショップ実践 (ブレイクアウトルームで行うこと)

テーマ: 皆さんが抱えている生活課題の解決に向けて、
自分の得意技や好きなことを使って解決するため
に学びから実践への行動計画をつくる。

- * アイスブレイク(省略します)
- * 困りごとを出し合い、解決に取り組むテーマを決める。
(課題出し・優先順位による設定)
→発散(ブレインストーミング)・収束(ラベルワーク)
- * 解決方法を出し合、事業目標づくり
(5W1Hによる思考回路)
→発散(ブレインストーミング)・収束(ラベルワーク)

ワークショップの具体的な進め方 (ファシリテーション1)

(時間は目安)

1. ファシリテーター役を2人決める。2人はそれぞれの段階で交代する。(困りごとを出し合う場、対応策を話し合う場) 5分
- 2-1. 生活をする上での困りごとを出し合う(拡散する) 10分
たとえば、「粗大ゴミが出せない」「お墓の掃除をしてもらいたい」「ペットの一時預かり」「庭掃除や草抜き」など
- 2-2. その困りごとのなかで重要だと思うものを1つに決める
(収束する)
たとえば、「ペットの一時預かり」が重要 10分

ワークショップの具体的な進め方 (ファシリテーション2)

(時間は目安)

- 3-1. 選んだ困りごとについて、対応策を考える(拡散する) 10分
たとえば「ペットの一時預かり」が選ばれた。
地域で、ボランティアでペットの預かりができる人を探す
シルバー人材センターに頼む(有償で)
地域で困りごと助け隊を組織する 等々
- 3-2. 出し合った対応策のうち、これだと思うものを1つに決める 10分
(収束する)
たとえば、「地域で困りごと助け隊を組織すると、他の困りごとでも対応できるので助かる」が選ばれた。
もし、時間があれば、その組織をどうつくるかも考える(5W1H)

ファシリテーターは、ブレイクアウトルームでの話し合いのプロセスをまとめ、
退出したあと全体場で発表する。(二人で5分以内) 5分*

参考:話し合いの設計シート(基本形)

開催日時(未)

- * 開催場所
- * 出席予定者
- * 議題決定
- * 前提として共有すべき情報(問題提起、講義など)
- * 話し合いのルール
- * 話し合いの進め方

会場設営、プログラム、時間配分、手法、

役割分担(ファシリテーター、グラフィッカー、タイムキーパー、
ムードメイカー、アイスブレイカー)

準備物(模造紙_枚、カラーマーカー_本、
黒ペン_本、ポストイット_色_冊)

57

まとめに変えて

- 参加者の属性に合わせたプログラムづくり
- 参加者の属性に合わせた手法の検討
- 変えない部分と変えていく部分のメリハリ
- 時間の管理
- 参加者の自主性とやる気を生み出す
- 介入すべき時か見守るときなのかを見極めること

自分なりの宣言をしてください

⇒今日学んだことをベースに、自分なりに工夫したファシリテートを実践することを約束します。

58

参考文献

参加のデザイン道工具箱(Part1~Part3) 世田谷まちづくりセンター (1996~1998)

アーバンデザイン研究会VOL.14 コミュニケーションデザインの実践講義資料(2019.10)
まち楽房(らぼ)有限会社代表取締役 加藤武志